

仏像・神像は、人々が「神仏のすがた」を想像し、礼拝の対象としてふさわしい、あるいはこうあって欲しいと思う理想のすがた造形化したものです。そのため、面長で痩せていたり、丸々とふくよかだったり、そのスタイルは造られる時代や地域によって様々に変化しています。

ここでは大阪市立美術館所蔵山口コレクション中国彫刻を中心に、南北朝時代北魏から清時代にいたる仏教、道教造像約50件を展示しています。

[北魏の彫刻]

最初の展示室では、当館山口コレクションを代表する北魏の三像(天安元年・如来坐像、菩薩交脚像龕、太子半跏思惟像龕)をはじめとし、北魏～東魏・西魏の作品を中心にご覧いただきます。展示室中程には、黄華石こうかせきと称する黄色がかかった石材を用いた、緻密な小像が並んでいます。また奥には、老子ろうしを祖とする道教の造像があります。もともと道教では礼拝の対象とする偶像がありませんでしたが、仏教の影響を受け北魏頃に道教像を造るようになりました。

石造	如来坐像 にょらいざざう	北魏・天安元年 [466]	本館蔵[山口コレクション]
石造	菩薩交脚像龕 ぼさつこうきやくざうがん	北魏 [5世紀後半]	本館蔵[山口コレクション]
石造	太子半跏思惟像龕 ほんかしい	北魏・太和16年 [492]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来坐像	北魏・太和18年 [494]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来三尊像	北魏 [6世紀前半]	本館蔵[山口コレクション]
石造	三尊像	北魏・永平3年 [510]	
石造	道教三尊像	北魏・延昌4年 [515]	本館蔵[山口コレクション]
石造	菩薩三尊像	北魏・延昌4年 [515]	本館蔵[山口コレクション]
石造	道教四面像	北魏・永熙3年 [534]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来三尊像	東魏 [6世紀中頃]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来三尊像	西魏・大統8年 [542]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来三尊像	西魏 [6世紀中頃]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来三尊像	西魏 [6世紀中頃]	本館蔵[山口コレクション]
石造	道教四面像	西魏・甲戌銘[554]	本館蔵[山口コレクション]
石造	四面像	北周・保定3年 [563]	本館蔵[山口コレクション]

[白大理石の仏像]

ここでは白大理石を用いた造像を中心に展示しています。白大理石は河北省曲陽などで産出する乳白色の石材で、その造像は白石像あるいは白玉像などと称され珍重されました。展示室中央の天保八年・如来三尊像龕は、石材の質・彫刻の技法共に極めてレベルが高い、北齊・白玉像の代表作のひとつです。東魏・北齊そして隋の作品群を通じて、一口に白玉像と言っても、石の色や肌合い、その作風が多様であることがわかりいただけると思います。

石造	菩薩三尊像	東魏・武定7年 [549]	本館蔵[山口コレクション]
石造	菩薩半跏像	北齊・天保4年 [553]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来三尊像龕	北齊・天保8年 [557]	本館蔵[山口コレクション]
石造	菩薩立像	北齊 [6世紀中頃]	本館蔵[山口コレクション]
石造	菩薩五尊像	北齊 [6世紀中頃]	本館蔵[山口コレクション]
石造	菩薩並立像	北齊 [6世紀中頃]	本館蔵
石造	二仏並立像	隋・開皇18年 [598]	大阪・四天王寺蔵

[石窟からもたらされた仏像]

大きな頭部や浮彫など、いずれも石窟寺院からもたらされた作品です。石窟とは、山や崖を掘削し、その内部をくりぬいて造られた、人間が入ることができる規模の空間のことです。ここでは中国の代表的な石窟寺院のうち、北魏・唐に造営された龍門石窟(河南省洛陽市)、東魏から開窟が始められた天龍山石窟(山西省太原市)、そして北齊の皇帝が造らせた北響堂山石窟(河北省邯鄲市)の諸像とその拓本を展示しています。

石造浮彫	供養人行列図	河南省龍門石窟古陽洞 将来	北魏・永平4年 [511]	本館蔵[山口コレクション]
石造	菩薩立像頭部	龍門石窟賓陽中洞 将来	北魏 [6世紀前半]	本館蔵[江口治郎氏寄贈]
紙本墨拓	皇帝皇后礼仏図	龍門石窟賓陽中洞	北魏 [6世紀前半]	大阪市立東洋陶磁美術館蔵 [田島充氏寄贈]
石造浮彫	維摩坐像	山西省天龍山石窟第3窟 将来	東魏 [6世紀中頃]	本館蔵[山口コレクション]
石造浮彫	菩薩半跏思惟像	天龍山石窟第3窟 将来	東魏 [6世紀中頃]	本館蔵[山口コレクション]
石造	河神坐像	河北省北響堂山石窟中洞 将来	北齊 [6世紀中頃]	本館蔵[山口コレクション]
石造	供養比丘坐像	北響堂山石窟南洞 将来	北齊 [6世紀中頃]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来坐像頭部	龍門石窟敬善寺洞 将来	唐 [7世紀中頃]	本館蔵[小野コレクション]

石造	如来立像頭部	龍門石窟奉先寺洞 将来	唐 [8 世紀前半]	本館蔵[小野コレクション]
石造	如来立像頭部	龍門石窟奉先寺洞 将来	唐 [8 世紀前半]	本館蔵[小野コレクション]

[北魏大型像とその後の中国彫刻]

最後の展示室では、北魏の大型像、そして唐や遼(契丹)さらに明・清までの様々な時代に造られた作品をご紹介します。

北魏の大型像には数多くの供養人(寄進者)のすがたや氏名が刻まれています。これは邑義(義邑)と称する仏教徒の信仰団体により造立されたことを示しています。また背面に三本足のカラスがいる太陽とカエルのいる月など、古代中国の伝統的文様が線刻される像もみられます。

また唐(618-907)は北魏と並ぶ中国石造彫刻の最盛期でした。しかしその後の遼(916-1125)や宋・元、明・清時代になると石造彫刻や石窟寺院の造営は減少していきます。ここでは日本であまり馴染みのない、遼～清時代の珍しい仏教・道教造像を展示しています。

石造	如来三尊像	北魏・景明元年 [500]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来三尊像	北魏・正始元年 [504]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来三尊像	北魏 [6 世紀前半]	本館蔵[上本俊平氏寄贈]
石造	如来三尊像	北魏 [6 世紀前半]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来三尊像	北魏 [6 世紀前半]	
石造	碑像	北魏・正光元年 [520]	本館蔵[山口コレクション]
石造	四面像	北魏・普泰元年 [531]	本館蔵[山口コレクション]

石造	如来倚坐像	唐・長安 3 年 [703]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来五尊像碑	唐・永淳元年 [682]	本館蔵[山口コレクション]
石造	如来坐像龕	唐 [8 世紀前半]	本館蔵[田万コレクション]
石造	如来坐像	遼 [11 世紀]	本館蔵[山口コレクション]
銅造	誕生釈迦仏立像	元～明 [13-14 世紀]	本館蔵[田万コレクション]
木造	如来坐像	明 [15 世紀]	本館蔵[田万コレクション]
銅造	観音菩薩及び脇侍像	明 [17 世紀]	奈良・薬師寺蔵
銅造	玄天上帝倚坐像	清 [18-19 世紀]	本館蔵[長谷川忠男氏寄贈]

□ 山口コレクション中国彫刻

関西の実業家であった山口謙四郎氏(1886-1957)が大正から昭和初期にかけて一代で収集した、仏教・道教造像 125 点からなる世界的規模の中国石造彫刻コレクションです。山口氏は旧山口銀行(現、三菱東京 UFJ 銀行の一部)の創業者・山口吉郎兵衛氏の四男として大阪船場で生まれ、関西信託社長や関連企業の役員を務めました。そして中国の石造彫刻に強い関心を示し、南北朝時代なかでも北魏を中心に、当時まだ研究の進んでいない地方的な作品も含め網羅的に収集しました。

□ 銘文・紀年銘めいぶん きねんめい

銘文とは、金属器や仏像に刻まれた文字のことです。そのなかで制作年が明らかになる元号や年月日のことを紀年銘と称しています。銘文によりその仏教・道教造像が、いつ、誰が、何のために造ったのか知ることができます。そのため銘文のある造像=在銘像は、各時代の様式差や地方性を考える上で重要なカギとなっています。

□ 北魏

北方遊牧騎馬民族である鮮卑せんびの氏族タクバツにより樹立された国です。386 年に内モンゴル・盛楽せいらくで建国し、398 年に山西・平城へいじょう、493 年には河南・洛陽へと遷都しました。5 世紀中頃より北魏は仏教によって領域支配を強化する方針をとり、国家の象徴ともいえる雲岡・龍門石窟の造営をはじめ、各地で盛んに仏像が造られていきます。なお本来の国号は「魏」ですが、三国時代の魏など同名の国が複数あるため、現在は支配地域により「北魏」と称されるのが一般的です。

□ 道教像

仏教に仏像、神道に神像があるように、道教においても礼拝の対象となる偶像=道教像が造られています。そもそも道教では礼拝像を必要としていなかったようですが、中国各地で浸透しつつある外来の宗教=仏教の影響を受けて造られるようになります。そのため道教像の出現は仏像に比べかなり遅く、現存最古の道教像は南北朝時代・北魏(5 世紀後半)の作品と考えられています。なお初期の道教像は仏像とほぼ同様のすがたで、仏像なのか道教像なのか判別しがたい像もみられます。